

2013年度第2四半期決算説明資料

2013年10月29日

川崎重工業株式会社

目次

I . 2013年度第2四半期連結決算の概要

◇ 第2四半期決算実績 サマリー	3
◇ 第2四半期決算実績 セグメント別	4
◇ 前年同期比損益増減要因分析 ①	5
◇ 前年同期比損益増減要因分析 ②	6
◇ セグメント別決算実績	
船舶海洋	7
車両	8
航空宇宙	9
ガスタービン・機械	10
プラント・環境	11
モーターサイクル&エンジン	12
精密機械	13
◇ 財政状態およびキャッシュ・フロー	14

II . 2013年度業績見通し

◇ 連結受注高・売上高・利益見通し	15
◇ セグメント別通期業績見通し	16
◇ 研究開発費・設備投資・期末従業員数	17

第2四半期決算実績 サマリー

(億円)

	2012年度 2Q累計	2013年度 2Q累計		増 減	
	実績	7月公表	実績	前年同期比	7月公表比
受注高	5,304	—	5,928	+623	—
売上高	5,749	6,100	5,950	+200	▲150
営業利益	103	240	268	+164	+28
経常利益	201	180	227	+26	+47
四半期純利益	124	115	130	+5	+15

前年同期比

【受注高】

ガスタービン・機械や車両等での増加が船舶海洋やプラント・環境等での減少を補い、全体では増加となった

【売上高】

精密機械やプラント・環境等で減収となったものの、モーターサイクル&エンジンや航空宇宙等が増収となったことにより、全体では増収となった

【利益】

車両、航空宇宙やモーターサイクル&エンジン等が増益ないしは改善となり、増益となった

売上加重 平均レート (実績/前提)	ドル (¥/\$)	79.92	95	97.77
	ユーロ (¥/EUR)	101.79	120	127.73

第2四半期決算実績 セグメント別

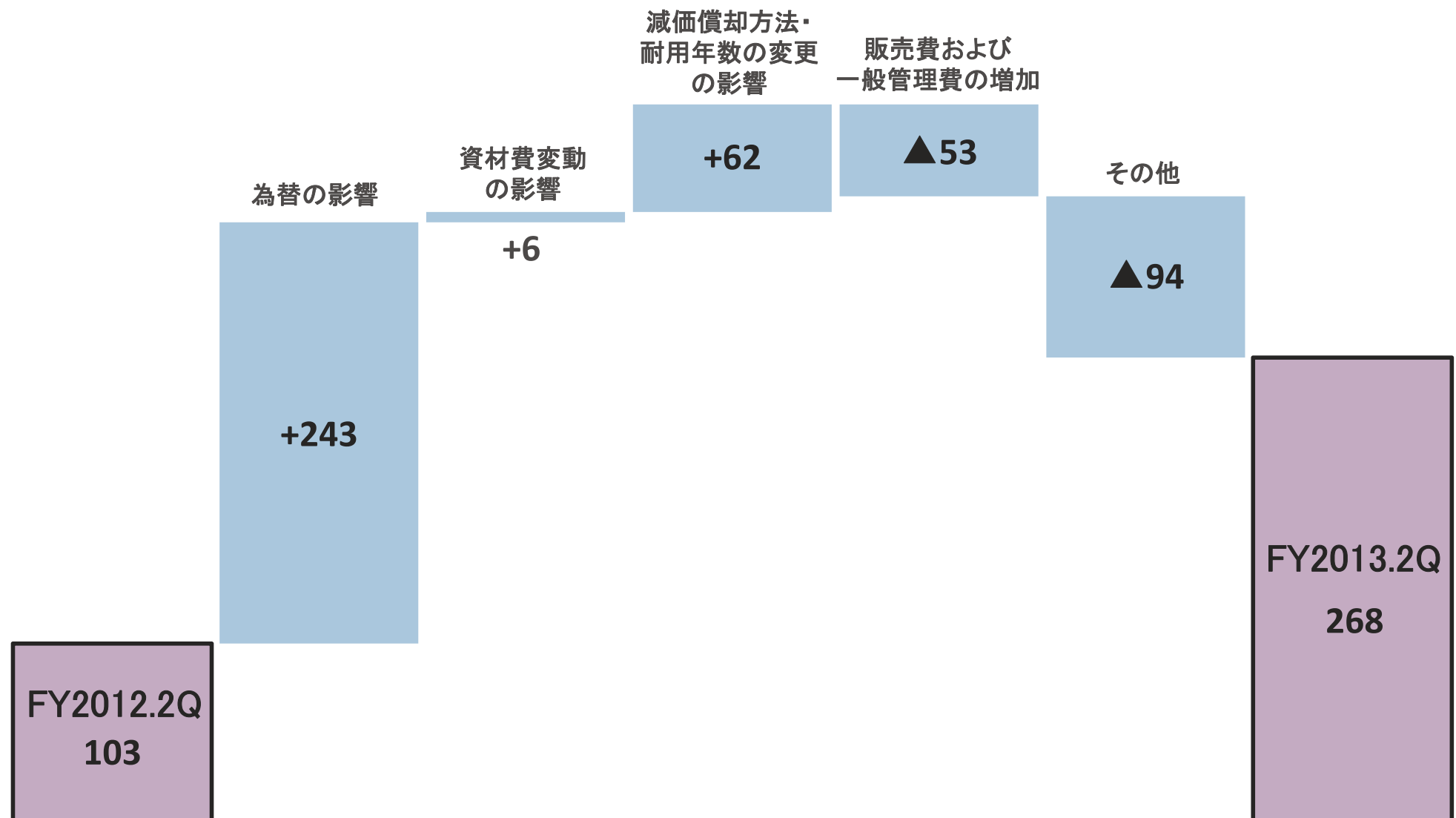
(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	2012年度 2Q累計	2013年度 2Q累計	増減	2012年度 2Q累計	2013年度 2Q累計	増減	2012年度 2Q累計	2013年度 2Q累計	増減
船舶海洋	378	307	▲71	458	395	▲62	10	15	+5
車 両	669	750	+81	514	599	+85	▲31	37	+68
航空宇宙	910	961	+51	1,091	1,223	+131	43	102	+58
ガスタービン・機械	654	841	+186	932	773	▲158	32	35	+2
プラント・環境	513	461	▲51	464	392	▲71	31	17	▲14
モーターサイクル&エンジン	1,039	1,397	+357	1,039	1,397	+357	▲22	25	+48
精密機械	556	617	+61	670	556	▲114	49	42	▲7
そ の 他	581	590	+8	579	612	+32	6	13	+6
調 整 額	—	—	—	—	—	—	▲17	▲21	▲4
合 計	5,304	5,928	+623	5,749	5,950	+200	103	268	+164

注)「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含む

前年同期比損益増減要因分析 ①

【営業利益】 前年同期比 +164 億円 (2012.2Q 103 億円 ⇒ 2013.2Q 268 億円)



前年同期比損益増減要因分析 ②

【営業外損益】 前年同期比 ▲138 億円 (2012.2Q 97 億円 ⇒ 2013.2Q ▲40 億円)

・金融収支 (受取配当金を含む)	▲ 3 億円 (▲ 9 億円 ⇒ ▲ 12 億円)
・持分法による投資利益	▲ 9 億円 (59 億円 ⇒ 50 億円)
・為替差損益	▲ 111 億円 (35 億円 ⇒ ▲ 75 億円)
・その他	▲ 14 億円 (12 億円 ⇒ ▲ 2 億円)

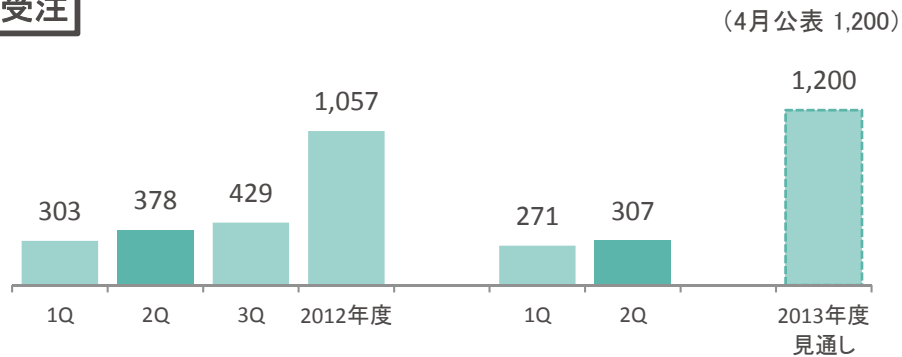
【特別損益】 前年同期比 0 億円 (2012.2Q 0 億円 ⇒ 2013.2Q 0 億円)

船舶海洋

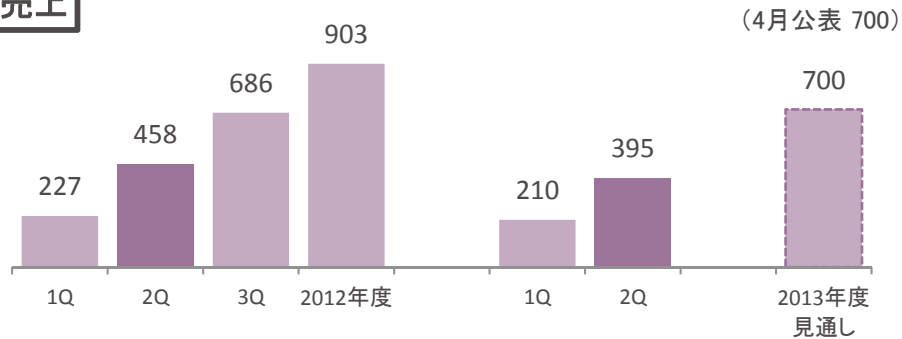
主要製品: LNG船、LPG船、VLCC、ばら積み運搬船、潜水艦、オフショア関連製品

(億円/各期の数値は累計)

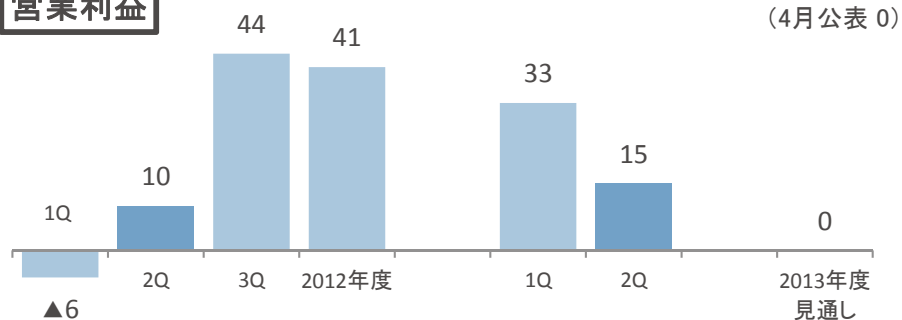
受注



売上



営業利益



◇ 当第2四半期実績 (前年同期比)

受注 LNG船等2隻を受注したものの、前年同期に比べ減少
売上 ガス船の建造量が増加したものの、ばら積み船等の建造量の減少により減収
営業利益 減収となったものの、円安の影響およびそれに伴う受注工事損失引当金の戻入等により増益

<新造船の受注・売上隻数> (隻)

	受注(2Q累計)		売上(2Q累計)	
	2012年度	2013年度	2012年度	2013年度
LNG船	1	1	1(1)	2(1)
小型LNG船			1(1)	1(1)
LPG船	1		1(1)	2(2)
ばら積み運搬船	2	1	18(10)	6(4)
潜水艦			1(1)	2(2)
合計	4	2	22(14)	13(10)

注) 括弧内は進行基準売上(内数)

◇ 2013年度見通し (4月公表比)

受注・売上・営業利益 期初から大きな変動はなく、見通しを据え置き

<参考> 海外での事業展開について

1995年12月、世界最大級の海運会社である中国遠洋運輸(集団)総公司(COSCO)との折半出資により設立したNACKSは、2008年に第二期拡張工事を完了し、COSCO等の中国船社に加えて日本・ヨーロッパ等の顧客向けに多種多様な商船を建造。また、NACKSがCOSCOグループの一員として参画し、2007年7月に設立したDACKSについては、当社もNACKSの親会社として支援を行って来たが、DACKSの競争力を一層強化し、さらなる発展を遂げるため、2012年4月、当社がDACKSに34%直接出資し、間接出資と併せ実質的に合計49%の出資とした。

さらに、油田開発・掘削のためのドリルシップやFPSO等の需要が急増しているブラジルにおいては、2012年5月、ドリルシップ建造等の合弁契約に調印し、エスタレーロ・エンセアーダ・ド・パラグアス(EEP)に30%出資した。

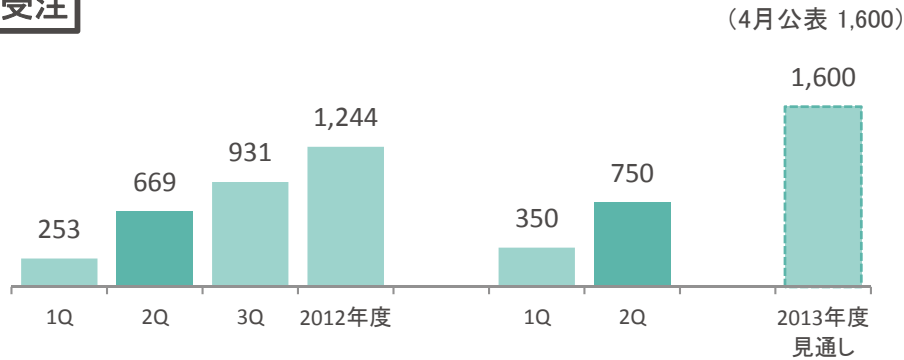
当社は、中国の2拠点での事業規模の拡大と収益性の維持向上ならびに第3の海外事業拠点としてのブラジルの新造船所の育成を図るため、国内拠点との協業体制を深化させ、各生産拠点の特長を活かした各種船舶の建造に積極的に取り組んでいく。

車 両

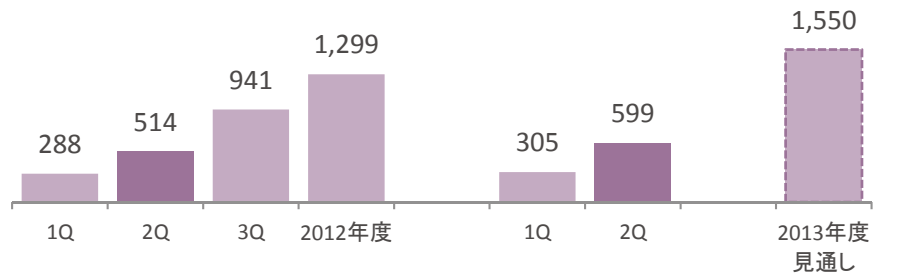
主要製品：各種電車(新幹線含む)、機関車、客車、ギガセル(二次電池)

(億円/各期の数値は累計)

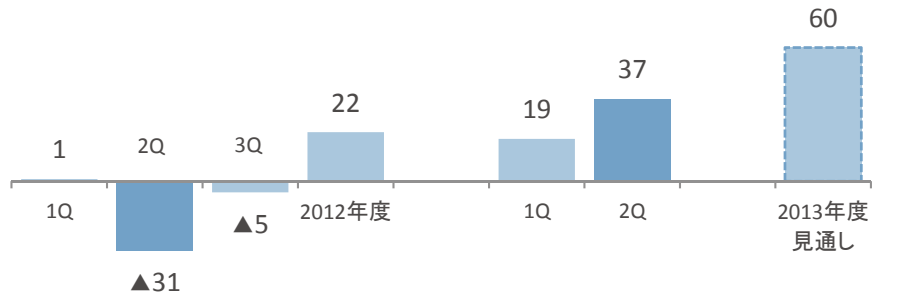
受注



売上



営業利益



◇ 当第2四半期実績 (前年同期比)

受注 ロングアイランド鉄道・メトロノース鉄道向け通勤電車、ワシントン首都圏交通局向け地下鉄電車および札幌市交通局向け地下鉄電車等の受注により増加

売上 国内向けが減少したものの、シンガポールや北米等の海外向けが増加したことにより増収

営業利益 高採算案件の増加や円安の影響により増益

◇ 2013年度見通し (4月公表比)

受注・売上・営業利益 期初から大きな変動はなく、見通しを据え置き

<参考> 海外市場への取組状況について

北米市場：

- ・地下鉄、通勤車両、高速鉄道を中心に幅広く受注活動中。
- ・中・高速鉄道需要に対応する新規車両開発(efSET[®]、K-Star Express[®])でラインナップを拡充。
- ・中速鉄道についてはアムトラック(全米鉄道旅客公社)向け、高速鉄道についてはカリフォルニア向けの受注を目指して活動中。

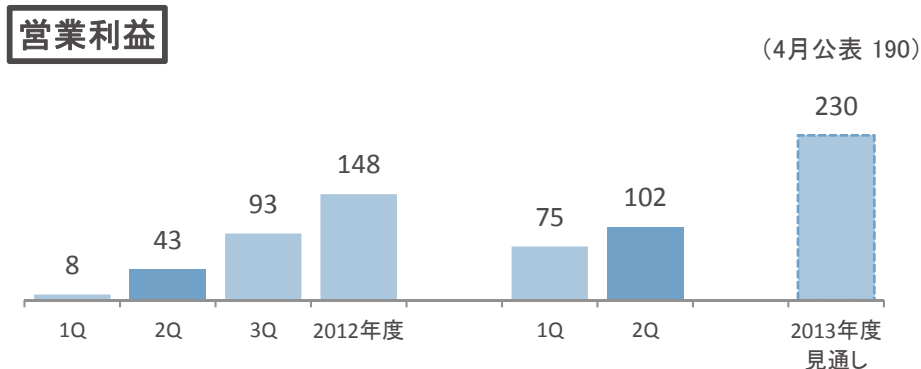
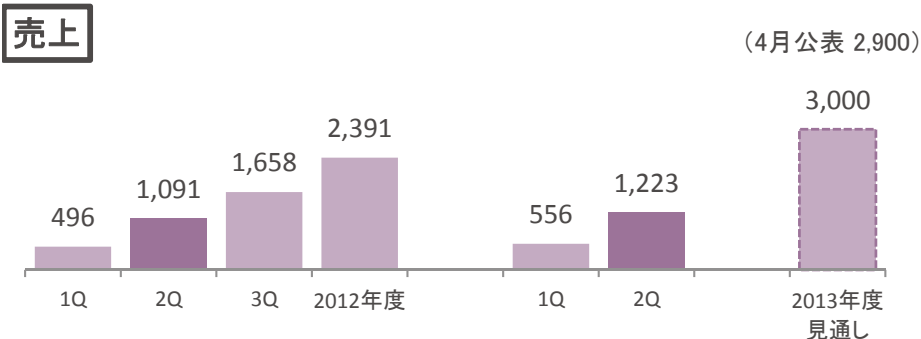
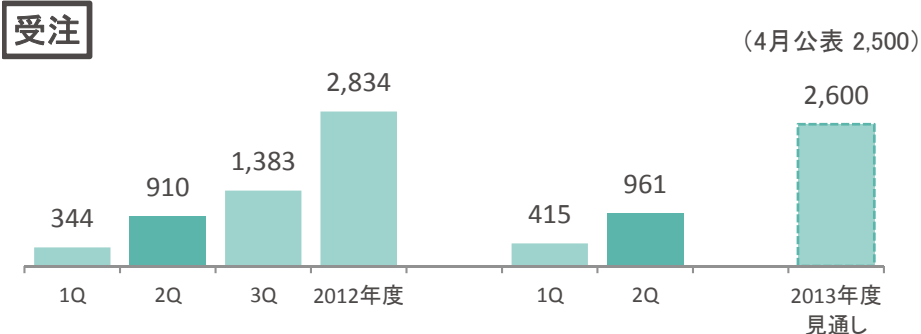
アジア市場：

- ・アジア各都市で都市交通建設・拡充計画、インド等での高速鉄道計画があり活動中。
- ・台湾・シンガポール等当社の実績のある市場において、後続案件を確実に受注していく。
- ・インド西回廊(デリー～ムンバイ)にて、貨物専用新線敷設の計画あり(円借款案件)。電気機関車、保守基地設備等の受注を目指して活動中。

航空宇宙

主要製品： 防衛航空機、民需航空機分担製造品、民間向けヘリコプター、誘導機器・宇宙関連機器

(億円/各期の数値は累計)



◇ 当第2四半期実績 (前年同期比)

受注 ボーイング社向け787分担製造品の受注により増加
売上 防衛省向け売上が前期並みを維持したことに加え、ボーイング社向け777・787分担製造品の増加等により増収
営業利益 増収や円安の影響により大幅な増益

<民需分担製造品の売上機数> (機)

	2012年度 2Q累計	2013年度 2Q累計
Boeing 777	42	50
Boeing 767	13	7
Boeing 787	26	32
Embraer170/175	9	22
Embraer190/195	35	23

◇ 2013年度見通し (4月公表比)

受注・売上 ボーイング社向け分担製造品の増加等により見通しを引き上げ
営業利益 増収およびコスト改善等により見通しを引き上げ

<参考> 主要プロジェクトの状況について

防衛航空機分野：

2013年3月、P-1固定翼哨戒機の量産初号機を防衛省に納入した。今後、量産契約を受注したC-2輸送機とともに、着実に量産に取り組んでいく。

民需航空機分野：

ボーイング777分担製造品

ボーイング社の月産製造レート増加に伴い、当社の月産製造レートも7機から8.3機に増加している。

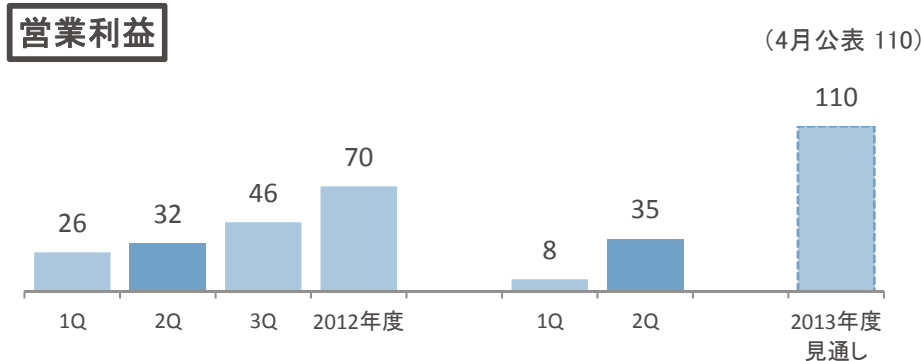
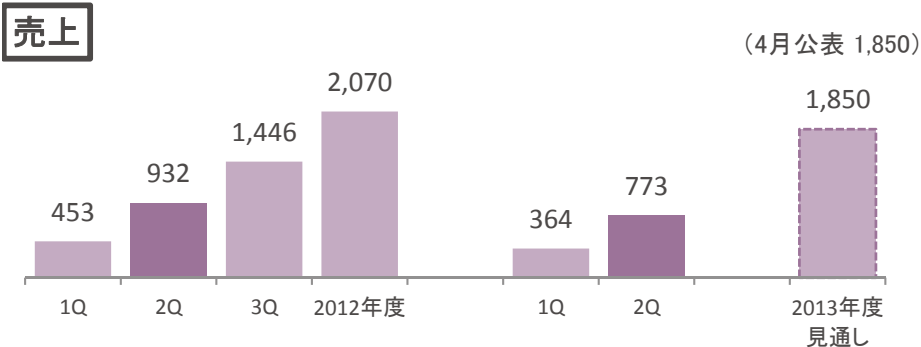
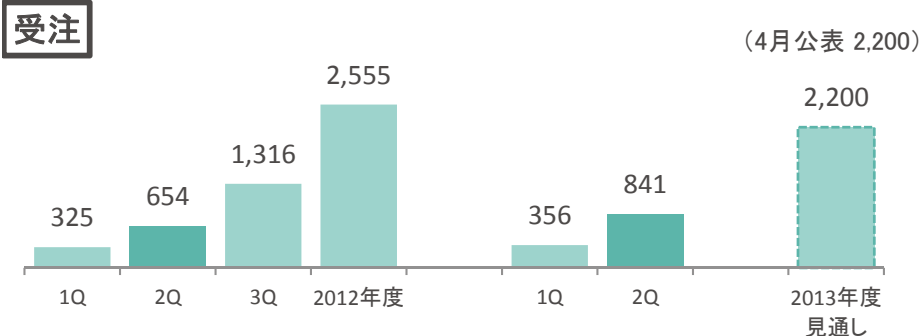
ボーイング787分担製造品

2007年1月にボーイング社に向けて初号機を納入したボーイング787分担製造品は、2012年8月には100号機納入を達成。現在名古屋第一工場にて本格化する増産のための体制を整備している。

ガスタービン・機械

主要製品： 航空機用エンジン、産業用ガスタービン・コージェネレーション、ガスエンジン、ディーゼル機関、陸用・船用タービン、空力・水力機械

(億円/各期の数値は累計)



◇ 当第2四半期実績 (前年同期比)

受注 航空エンジン分担製造品の経理処理変更による影響があったものの、ガスエンジンや水力機械等の増加により増加

売上 航空エンジン分担製造品の経理処理変更による減少分を除外すると、船用ディーゼル主機の減少はあったものの、航空エンジン分担製造品およびガスエンジン等の増加により前年同期並みを維持

営業利益 売上が実質的に前年同期と同水準であったことに伴い、前年同期並みを維持

◇ 2013年度見通し (4月公表比)

受注・売上・営業利益 期初から大きな変動はなく、見通しを据え置き

<参考>

航空エンジン 主要参画プロジェクト概要

	Trent1000	TrentXWB	PW1100G-JM
主な搭載機	ボーイング787	エアバスA350	エアバスA320neo
参画方式	RRSP方式(※)	RRSP方式(※)	国際共同事業
当社参画比率	約8.5%	約7%	約6%
担当部位	中圧圧縮機(IPC)モジュール	中圧圧縮機(IPC)モジュール	ファン/低圧圧縮機部の主要部品
進捗状況	開発は完了し、2010年度量産開始 今後機体の生産スケジュールに合わせて順次納入予定	2013年6月、初飛行試験を実施し、 現在飛行試験を継続中	開発・生産への参画を決定 現在設計作業中

(※) Risk & Revenue Sharing Partner方式

2013年7月に「Trent1000-TEN」および「TrentXWB-97」の開発生産にRRSP方式で参画することで契約を締結した。

エネルギー・環境関連製品

2012年2月に開発を完了した30MW級の純国産高効率ガスタービン「L30A」が順調に稼働中。さらに、マレーシアに開設したガスタービンオーバーホール工場ではオーバーホール作業を開始し、サービス体制をさらに整備している。ガスエンジンにおいても本年6月に初のインド向け案件を、10月に初の米国向け案件を出荷するなど海外市場での実績を着実に積み重ねるとともに、東南アジアに販売拠点を設置するなど、アジア地域を中心に海外展開を強化している。

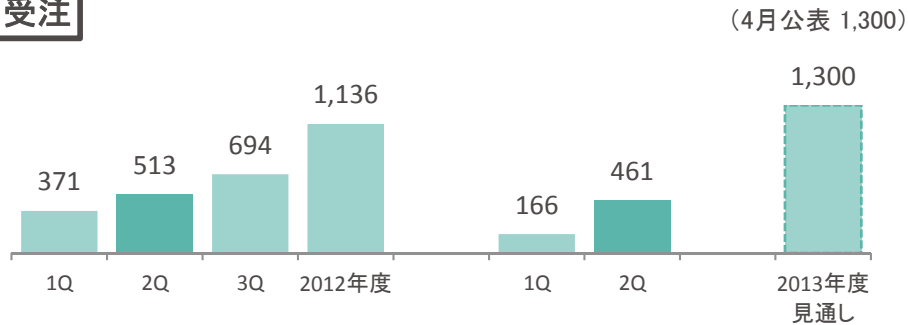
また、エネルギーソリューション事業を強化すべく2013年4月に新組織を立ち上げ、国内外市場においてエネルギー・環境関連事業を積極的に展開している。

プラント・環境

主要製品：産業プラント(セメント、肥料等)、発電プラント、LNGタンク、ごみ焼却プラント、トンネル掘削機、破碎機

(億円/各期の数値は累計)

受注



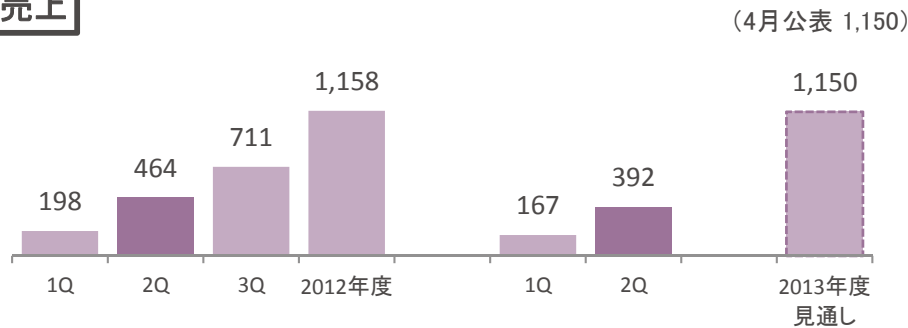
◇ 当第2四半期実績 (前年同期比)

受注 海外向け大型案件を受注した前年同期と比べ減少
売上 シールド掘進機や環境装置案件が増加したものの、搬送設備や海外向け大型案件が減少したこと等により減収
営業利益 減収や利益率の低下等により減益

◇ 2013年度見通し (4月公表比)

受注・売上・営業利益 期初から大きな変動はなく、見通しを据え置き

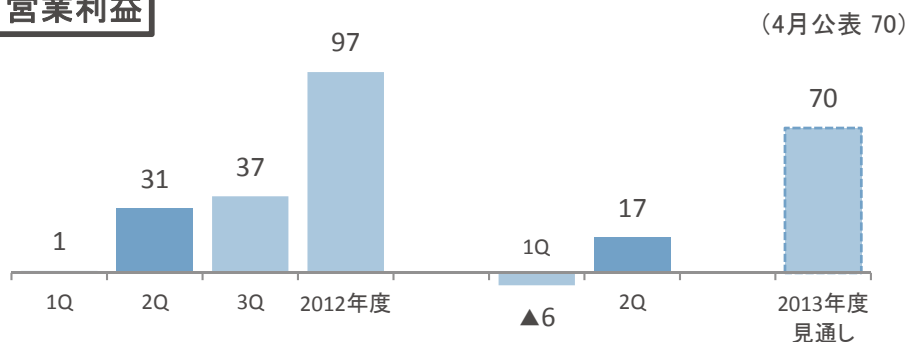
売上



<参考> 環境・エネルギー案件の受注について

- 世界的なエネルギー需要の高まりからFloating LNGの建設が数多く計画されているが、当社のこれまでの陸用・船用ボイラの納入実績(1,200缶以上)や洋上運転に耐える技術力が高く評価され、2011年7月、フランス/Technip社より、オランダ/Shell社がオーストラリアで建設する世界初のFloating LNG用ボイラ7缶を受注した。
- 2012年4月、オーストラリアのイクシスLNGプロジェクト向け低温タンク4基を受注した。イクシスLNGはその7割程度を日本向けに出荷することが確定するなど、わが国のエネルギーの安定供給および天然ガス供給元の多様化の観点から非常に重要であり、当社は、大型LNGタンクの豊富な実績とEPC技術力を以って本プロジェクトを支援していく。

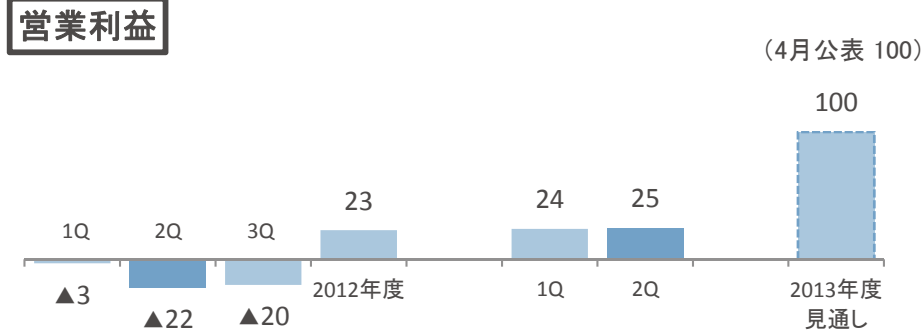
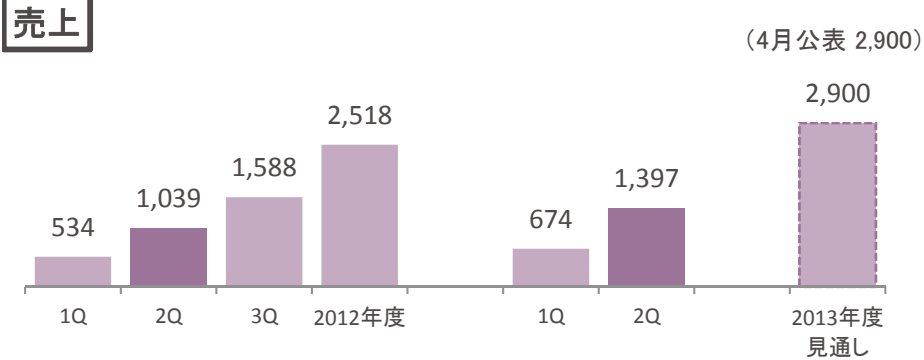
営業利益



モーターサイクル&エンジン

主要製品： 二輪車、四輪バギー車(ATV)、多用途四輪車、パーソナルウォータークラフト、汎用エンジン

(億円/各期の数値は累計)



<コンシューマー向け製品 地域別売上(卸売)台数・金額> (千台、億円)

	2012年度				2013年度			
	2Q累計		通期		2Q累計		通期見通し	
	台数	金額	台数	金額	台数	金額	台数	金額
国内	8	67	14	121	10	78	14	121
北米(カナダ含む)	45(28)	283	118(74)	797	52(30)	416	117(68)	895
欧州	21	148	55	385	19	171	56	412
新興国等	168	390	357	862	186	545	433	1,079
合計	242	888	544	2,165	267	1,210	620	2,507

注1)二輪車、四輪バギー車(ATV)、多用途四輪車、パーソナルウォータークラフト
(「ジェットスキー」)およびこれらの関連製品を含む。

注2)括弧内は二輪車分を示す。(内数)

◇ 当第2四半期実績 (前年同期比)

売上 米国向けおよびタイやインドネシアを中心とする新興国向け二輪車の増加等により増収

営業利益 増収および収益性の向上等により改善

◇ 2013年度見通し (4月公表比)

売上・営業利益 期初から大きな変動はなく、見通しを据え置き

<参考> 新興国での事業展開について

新興国のレジャー用オートバイ市場は引き続き堅調であり、当社はその成長需要を取り込んでいく。

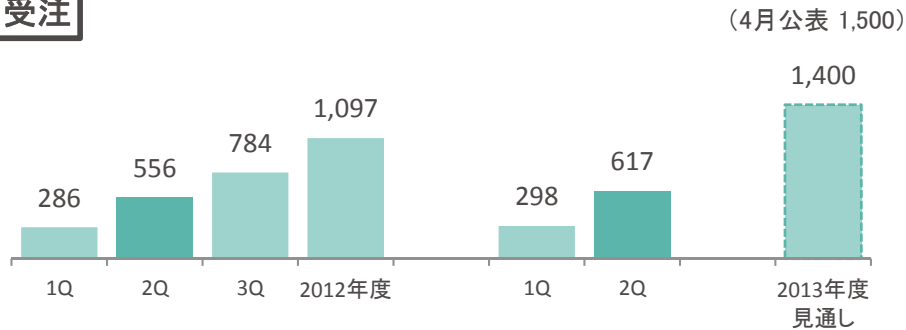
- ・ 新興国市場での事業基盤をより強固なものにするため、生産能力増強投資としてインドネシア新工場建設、タイ工場拡張を実行中である。
- ・ 2013年ニューモデルの世界戦略車「Ninja 250/300」は新興国のみならず全世界で好評を博している。
- ・ インドネシア市場向けに改良を施した「パルサー200NS」を開発、Kawasaki Bajajブランドを冠して市場に投入した。
- ・ 中国市場において川崎重工管理(上海)有限公司を通じて二輪車の輸入・販売を開始した。

精密機械

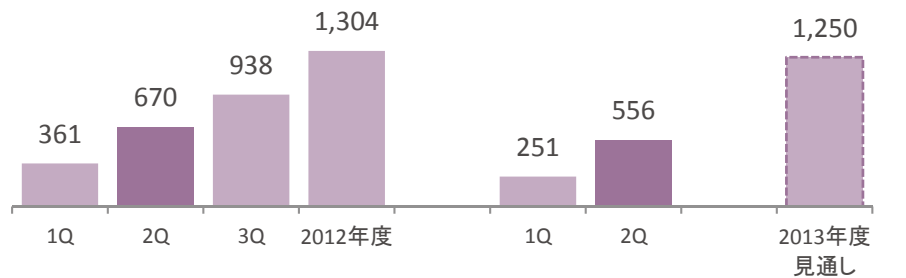
主要製品：油圧機器（ポンプ・モーター・バルブ）、陸用油圧装置、船用油圧装置、精密機械・機電製品、産業用ロボット

（億円/各期の数値は累計）

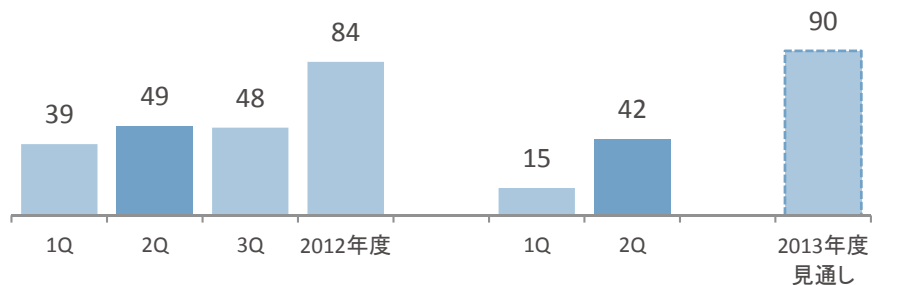
受注



売上



営業利益



◇ 当第2四半期実績 （前年同期比）

受注 自動車産業向けロボットや半導体製造装置向けクリーンロボットの増加等により増加

売上 中国を中心とする新興国での建設機械向け油圧機器の減少等により減収

営業利益 減収等により減益

◇ 2013年度見通し （4月公表比）

受注・売上 中国を中心とする新興国での建設機械市場の回復に想定より遅れが見込まれることにより見通しを引き下げ

営業利益 減収により見通しを引き下げ

<参考> 新興国での事業展開について

油圧分野:

2006年8月、中国・蘇州の現地法人にて油圧機器の生産を開始。さらに浙江省にも合併で油圧機器の製造会社を設立し、2010年4月より操業を開始。上海に設立した販売会社を通じ、現地生産会社の製品を中国全土の顧客に供給している。

なお、足元の中国建機市場は下げ止まりはしたものの未だ低調が続いている。しかしながら、中国は今後もエネルギー、交通関連、都市開発など数多くのインフラ需要が見込まれ、中長期的には市場は拡大するものと期待される。

一方、将来的には中国市場に次ぐ規模に成長するものと見込まれているインドにおいても、顧客からの現地生産要請に 대응するため、2012年2月に現地企業と合併で建設機械向け油圧機器の製造・販売・サービス会社を設立した。

ロボット分野:

人件費等の高騰により生産の自動化ニーズが高まっている中国において、2015年度からの産業ロボットの生産開始を目指し、蘇州市にある油圧機器工場の敷地内にロボット生産工場の新設を計画している。

財政状態およびキャッシュ・フロー

【財政状態】

(億円)

	2012年度		2013年度 2Q末
	2Q末	4Q末	
総資産	13,808	14,662	15,574
自己資本 (自己資本比率)	3,064 (22.1%)	3,382 (23.0%)	3,264 (20.9%)
有利子負債残高 (NET有利子負債)	4,723 (4,435)	4,846 (4,461)	5,831 (5,510)
NET D/Eレシオ	144.7%	131.9%	168.7%

注) 有利子負債残高にはリース債務を含む

【キャッシュ・フロー】

(億円)

	2012年度 2Q累計	2013年度 2Q累計
営業キャッシュ・フロー	▲194	▲456
投資キャッシュ・フロー	▲461	▲419
フリーキャッシュ・フロー	▲656	▲875
財務キャッシュ・フロー	592	809

連結受注高・売上高・利益見通し

(億円)

	2012年度 実績	2013年度見通し		増 減	
		4月公表	今回公表	前年度比	4月公表比
受注高	13,695	14,500	14,500	+805	0
売上高	12,888	13,800	13,800	+912	0
営業利益	420	600	600	+180	0
経常利益	393	530	530	+137	0
当期純利益	308	340	340	+32	0

4月公表比

【受注高】

中国を中心とする新興国での建設機械市場の回復に想定より遅れが見込まれる精密機械での減少はあるものの、ボーイング社向け分担製造品の増加等が見込まれる航空宇宙の増加により、全体では見通しを据え置き

【売上高・利益】

中国を中心とする新興国での建設機械向け油圧機器の減収・減益を、ボーイング社向け分担製造品の増加、およびコスト改善が見込まれる航空宇宙等が補うことにより、全体では売上高・利益とも見通しを据え置き

売上加重 平均レート (実績/前提)	ドル (¥/\$)	82.86	95	95
	ユーロ (¥/EUR)	107.76	120	130

注) 前提レートは見通し公表時の為替エクスポージャーに対して適用

(参考) 為替影響額

1円の変動による影響額 (億円)

	営業利益	経常利益
ドル	13(17)	11(8)
ユーロ	2(2)	0(0)

※括弧内は7月公表時

セグメント別通期業績見通し

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	2012年度 実績	2013年度見通し		2012年度 実績	2013年度見通し		2012年度 実績	2013年度見通し	
		4月公表	今回公表		4月公表	今回公表		4月公表	今回公表
船舶海洋	1,057	1,200	1,200	903	700	700	41	0	0
車 両	1,244	1,600	1,600	1,299	1,550	1,550	22	60	60
航空宇宙	2,834	2,500	2,600	2,391	2,900	3,000	148	190	230
ガスタービン・機械	2,555	2,200	2,200	2,070	1,850	1,850	70	110	110
プラント・環境	1,136	1,300	1,300	1,158	1,150	1,150	97	70	70
モーターサイクル&エンジン	2,518	2,900	2,900	2,518	2,900	2,900	23	100	100
精密機械	1,097	1,500	1,400	1,304	1,400	1,250	84	140	90
そ の 他	1,251	1,300	1,300	1,242	1,350	1,400	12	30	40
調 整 額	—	—	—	—	—	—	▲80	▲100	▲100
合 計	13,695	14,500	14,500	12,888	13,800	13,800	420	600	600

注)「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含む

研究開発費・設備投資・期末従業員数

(億円・人)

	2012年度 実績	2013年度 見通し			
		4月公表	今回公表	4月公表比	
研究開発費	417 (182)	440 —	430 (181)	▲10	
設備投資※2	786 (354)	840 —	1,010 (415)	+170	
減価償却費	483 (219)	430 —	400 (179)	▲30	
	国内	25,222	25,700	25,700	0
	海外	8,788	9,200	9,200	0
期末従業員数	34,010	34,900	34,900	0	

※1 括弧内の数字は2Q実績を表す

※2 有形固定資産および無形固定資産の増加額

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する “Global Kawasaki”

ご注意

本資料のうち、業務見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願い致します。実際の業績は、外部環境及び内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、税制や諸制度などがあります。